

110518 校内研

5月18日 校内研究会

専科分科会授業提案

第5学年 音楽科「音の重なりとひびき」

指導者 坂藤 正代

授業の流れ

- 1 これまでの学習の振り返り
- 2 既習事項の確認（実物投影機でフラッシュ型教材）
- 3 課題の確認（実物投影機で白黒とカラーの絵）
- 4 演奏の工夫（大型テレビで前回の演奏を見る、聴く）
- 5 本時のまとめ



協議会

分科会提案 ワークシートの活用で、自分の考えをもち、話し合う中で表現の工夫につなげるようにした。
デジタルカメラ(動画機能)の活用で、めあてに沿った工夫の交流ができるようにした。

自評 昨年やっていない試み（フラッシュカード、動画）をやってみた。新学習指導要領で「自分の思いをもって」の重視が大きい変化であり、今回の根拠になっている。ワークシートの工夫は有効だった。

協議 演奏を振り返るのは難しいが、映像で振り返るのは有効だった。グループ活動では、戸惑っていたグループもあったが、全体的には一生懸命で、協力して工夫していた。言葉で表現しにくいもの（白黒からカラーへのイメージ）も視覚的でわかりやすかった。



指導・助言 玉川大学教職大学院 教授 堀田 龍也先生

パート毎の指導では、ほとんど先生が話して聞かせていたが、児童はまるで自分が気付いたように感じていた。待っていても無理なことは教えてしまわないと授業時間が足りなくなる。

最後の演奏は見せてもよかった。次の授業でまた一からになってしまう。児童はなかなか上達したことが感じられない。

表現力に関して、昨年の研究から、指示の確実性・動作化・マスキング・ICTの置き方は、先生方が身に付けることができた。次は、発表の仕方・子供の目線・ノートの取り方の徹底に視点を置いて表現力を鍛えていくことで、「これを見せたい・伝えたい」という児童を育てていく。また、学習指導要領では、「効率のよい勉強法」と「習得したことを活用する」ことが重要とされている。

振り返りカードより

教えるべきことは教える、習得しないと活用はできない、メリハリをつけるということが強く印象に残った。

ICTの活用方法が改めて分かった。何を見せたいかを焦点化させないと意味がない。

今年は教員が使いこなすだけでなく、児童が自分の発表の際に活用できる段階に育て上げたい。

ICTだけでなく、教材研究をしっかりしないといけないと思った。

当日の授業についてのご指導

(3 - 1 社会 鈴木実践)

スクリーンに映した「地図に線を引く」「地図を比べる」作業は実物を抽象化していく学習なので、児童が想像しながら何回も繰り返し行うとよい。近くで見ている教員には見えても、実は遠くから見ている児童には見えていないことも多い。赤などでマーキングをしていくことは非常に重要。



(3 - 2 国語 赤津実践)

国語の話し方の型を学習していた。映像で前時の様子を振り返っていた。実技を映像で振り返るのは非常に大切。



(5 - 2 図工 榎木実践)

児童が作品を手を持って「ここが」と指さしていたのを置かせて実物投影機に映し、指示させていたのはよかった。ワークシートを使う目的や、今見せるのはワークシートのどこなのかということをはっきりさせなくてはならない。

(1 - 2 国語 嶋原実践)

1年生の話し方の学習は今年度新しく入った単元で、「教えて、習得させて活用できるようにさせる」という流れを同じ時間数の中で行っていかなくてはならない。教えと活用のメリハリが必要。そのことを十分理解してやらないと学習内容が終わらない。



(6 - 2 理科 大島実践)

実験の手順の説明でデジタル教科書を映していたが、文字は児童には見えていない。写真だけをアップして見せ、やり方は口頭で説明するなどの工夫が必要。プラズマテレビに映す場合は「映り込み」に注意。児童に見えているかを常に念頭に置く。理科の学習では、実験の予想はどんどん話させていくことが大切である。予想に対する理由を話させ、言語活動の充実を図るようにしていきたい。



(2 - 1 算数 本橋実践)

ひき算の繰り下がりではICT以外の提示の定石も使用していた。(一の位、十の位を色分けした掲示物)今までの積み重ねで使ってきたものもどのように使うか、またどのようにICTにのせていくかを考えることが必要である。



(6 - 1 社会 曾我実践)

6年生の社会では新聞作りを行っていた。これは十分な知識の習得ができていないと十分な内容が書けない。言語の活用として大切な活動である。5, 6年の社会は学習内容が非常に多いので、教師が投げかけて時間内に自学が進むように工夫するとよい。



(4 - 1 道徳 福田校長実践)

道徳ではマスキング機能を使わずにマスキングを行っていた。何をどのように見せればよいかをつかんでいる。道徳の資料は渡さずにICTで紙芝居風に見せ、見事に児童は題材の内容をつかんでいた。板書では同じことは書かずにまとめたことが重要。

